府中地区保護司会だより

第37号

発行責任者　府中地区保護司会
会　　長　谷　合　隆　一

万灯競演　けやき並木にて

（写真提供　府中市広報課）

会長就任にあたって

府中地区保護司会
会長　谷合　隆一

本年度、府中地区保護司会の会長を務めます谷合隆一と申します。日ごろ市内の皆様のご理解とご協力をいただきながら、現在五十七名で活動をしています。特に本年四月に開設に至った「サポートセンターふちゅう」につきましては、国の要請に対する市当局の迅速な対応と、地域住民の皆様の温かいご理解があって実現したものであり、関係する皆様に心より感謝を申し上げます。私たち保護司が携わる更生保護活動は、非行や犯罪の無い「安全で安心して暮らせる地域づくり」を目的としています。また最近では犯罪予防にも力を入れ、中学校や関係機関との連携も以前に増して行われるようになりました。このように他団体との連携が求められる中、サポートセンターが設置されたことは、活動拠点としての場所だけでなく私たち保護司の心の支えにもなっていくことと思います。

近年、犯罪も多様化・低年齢化・国際化し、世の中がこれから先どのように変わっていくのか想像すら出来ませんが、私たちの住む府中市には、いにしえの昔から変わらずに続けられてきた心強い伝統文化があります。それは、市内各地にある神社の祭礼です。特に日本中ほとんどの人が「地元を離れどこかへ遊びに出かけよう！」と計画を立てるゴールデンウイーク中に、まさに老若男女が一つのことに情熱を注ぎ、夢中になって大國魂神社の「くらやみ祭り」を楽しみます。これらのお祭りが、地域の人と人との繋がりにとって大きな役割を果たしてきました。そして、お祭りが盛んなことによって昔から非行や犯罪の起こりにくい地域であるとも言われております。しかしながら、府中市は今も人口が増え続け、いろいろな価値観を持った人たちが暮らしています。今後も人や環境は変化し続けると思いますが、伝統文化を大切にし、府中地区保護司会としても、これからも非行や犯罪を少しでも減らせるような活動を続けてまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

一口メモ

・不易流行（ふえきりゅうこう）

『私は急がない。「不易流行」、時代を超えて変わらないもの、新味を求めて変化するものどちらも大事』と芭蕉は言った。

「サポートセンターふちゅう」を開所して

府中地区保護司会副会長　髙野佳子

陽春の四月七日、「サポートセンターふちゅう」の開所式を和やかに盛会のうちに催すことができました。東京保護観察所立川支部長南元様、同統括保護観察官石井様がお祝いに駆けつけて下さり、府中市からは、福祉保健部の川田部長、遠藤次長を始め、多くのご来賓の皆様の参列をいただきました。また、近隣の自治会長の方々とも情報交換、交流が持て有意義な時間でした。

保護司の処遇活動や犯罪予防活動を行う拠点を確保し、開所できたことは意義深く、地域における更生保護の拠点としての機能を更生保護女性会と共に発揮できればと思います。

サポートセンターの現況・効果

○現在、十七名の企画調整保護司を中心に、保護司全員で当番編成をし、三、四人体制で駐在に当たっている。

○駐在日は火曜・金曜日の十時から十六時であり、これにより、保護司同士の交流が深まり、処遇の悩みなど話せる場ができ、情報交換が活発化した。

○書類作成・保管が容易になり、情報の共有化が進み、プロジェクターを活用し部会を行うなど、運営が円滑になった。

○各種会合の会場確保の負担が軽減され、気兼ねなく打合せ等ができ、予定を早期に組めるようになった。また、会場費用の節減にもつながった。

○更生保護女性会も会議室として活用でき、周年行事に向けて合同で実行委員会を開催するなど、連携が深まった。

今後に向けての課題

○設置から四ヶ月が経過し、市民への周知・広報をどのように進めるか。ホームページの開設を検討中。

○相談活動業務にむけて、運営委員会で協議を重ね、個々のスキルアップを目指すと共に関係諸機関との連携を深め、他地区保護司会からも情報収集する。対応マニュアルを検討中。

○来年二月十九日に、市民に向けた講演会を更生保護女性会と共に開催する予定。

関係機関等の打合せがこの場において可能になれば、対象者の面接を含め地域における更生保護拠点の確立につながり、そのために、今後も各方面の理解を求めていかなければならない。

開所式にて　地域の方々と一緒に

サポートセンターふちゅう
府中市本宿町2－20　TEL（FAX）042-319-8608

社会貢献活動

担当保護司　西腰　美惠子

本年六月に更生保護法が改正施行され、本格実施が始まりました。

府中地区は、筒井孝敏・原田勝彦・西腰美惠子の三名が社会貢献活動担当保護司を委嘱され、安立園での活動を手伝います。

少年・成人ともに、善良な社会の一員としての意識の涵養（かんよう）及び規範意識の向上を図り、もって再犯防止及び改善更生を図ることを目的としています。一人の活動回数は原則五回で、安立園と東京元気農場の手伝いや切手整理等を行います。参加者は裁判所の判断に従い、主任官からの遵守事項通知書で誓約手続きを行い、活動計画をもとに参加を指示されます。

活動当日は、オリエンテーションで仕事の説明を受け、今日の目標を各自で考えます。活動終了後、振り返りシートに、目標達成度や感じた事を記録します。試行実施時の参加者たちは、職員の方等の励ましや、「ありがとうね」の言葉かけが、本人のやる気を引き出し、全員がきちんとした働きぶりでした。良い体験が今後の生き方に反映されることを願っています。

自主研修講師譚

研修部　奈良　元俊

研修部の伊藤部長から、平生より幾分優しめの声音で、「奈良さん、今度の自主研修で何か話をしてくれる？刑務所のときの経験談でいいからさ。」と、自主研修の講師依頼の話があったのは今年一月の研修部会の席上だった。「刑務所のとき」というのは収容されていたときという意味ではもちろんない。小生は、昭和五十二年二十七歳で刑務官を拝命以来三十二年間、各地の刑事施設で勤務した経歴を持つ身なので、そのときのことを話せというのである。

経験談程度であれば何か話せるかなと、後先考えない安易な性格が災いし、気軽に引き受けたものの、その後しばらくして与えられた題目を見て驚いた。「少年院、刑務所の現況」とある。勤務経験のない少年院のことも話さなければならない。しかも「現況」である。これは勉強しなくちゃ話せないわ、と前頭葉の一部がチリチリしだし、その部分だけ血流が異常に昂進したまま五月二十日の自主研修当日を迎える羽目になった。

さてその当日である。石井統括保護観察官による保護観察の現況説明のあと小生の番が来た。石井統括のお話はさすがに簡潔明瞭、お声のトーンも柔らかで気持ちが良い。小生はと言えば、異様な興奮状態のまま、話し始めたは良いが、途中で今日用意した説明項目は時間内にはとても話切れないわということに突然気づき、そのことに狼狽し、コントロール不能状態。一時間足らずの持ち時間の中に、刑罰や保護処分の流れ全体の話、刑務官の階級など刑務所の組織の話、自身の経歴、経験談、はては日ごろ思っている加害者と被害者の問題まで入れようなどは無謀に過ぎた。

とここまで書いたところで紙数が尽きた。話と同様書くものについてまでも相変わらずの段取りの悪さである。

更生ペンギン　ホゴちゃん

府中地区における保護観察事件及び生活環境調整事件の概況

広報部長　大沢　美保子

府中地区保護司会では、奇数月の第三水曜日に自主研修会が開かれており（年６回）、毎回、主任官から府中地区における犯罪の動向や保護観察などの概況について説明を受けています。

主任官から配られた資料を参考に、最近三年間の動き（表１・２）を見ると、保護観察事件については、ここ数年増加の傾向にあるようです。少年の保護観察（１号・２号）では窃盗や傷害が多く、周囲に流されやすく、仲間で事件を起こすケースがみられるとのことです。成人の保護観察（３号・４号）では、薬物事犯や詐欺（振り込め詐欺）が多いのですが、悪質なものはそれほど多くはないとのお話でした。

生活環境調整事件については、当地区では全体的に減少傾向にあります。主な非行名・罪名には、窃盗・詐欺等（少年院）、覚せい剤・窃盗・詐欺・強盗・殺人等（刑務所）があげられています。

（１）保護観察事件係属数の推移

保護観察	１号～４号の合計
H25・3・８現在	47
H26・5・20	58
H27・5・20	77

（２）生活環境調整事件係属数の推移

生活環境調整	（少年院・刑務所）合計
H25・3・8現在	52
H26・5・20	45
H27・5・19	40

（資料：東京保護観察所立川支部より）

（注）
１号　保護観察処分に付された少年
２号　少年院から仮退院を許された少年
３号　刑務所からの仮釈放を許された者
４号　保護観察付執行猶予の言渡しを受けた者

第65回　社会を明るくする運動

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

高野推進委員長（府中市長）
あいさつ

第65回社明ポスター

谷合保護司会会長あいさつ

推進大会

会場の様子

講師：ヴィヒャルト千佳こ先生

街頭広報活動セレモニー

来賓・更生保護女性会

「社会を明るくする運動」

地域活動部　若松　正子

今年、第六十五回「社会を明るくする運動」の中央推進会議はこれまで法務省で開催されていましたが、この運動を一層強力に推進するため総理官邸での開催となりました。安倍晋三内閣総理大臣からのメッセージに基づき、政府も一丸となって更生ペンギンホゴちゃんをメインのキャラクターに、再犯防止に関する宣言、「犯罪に戻らない・戻さない」を決定し七月の強調月間中の行事等において理解と協力をよびかけました。

府中でも七月一日、府中地区保護司会を中心に府中市推進委員会を組織し、けやき並木歩道を街頭広報活動の場所として予定しておりましたが、雨のため中止となりフォーリス内の「風と光の広場」において、セレモニーのみの開催となりました。例年多数の協賛団体、府中市立中学校の多数の生徒さんも参加されますが、次回の参加に期待したいです。

七月十日の「社会を明るくする運動推進大会」は府中グリーンプラザけやきホールにおいて、式典と講演が行われました。今回の講師はヴィヒャルト千佳こ先生（臨床心理士）で、神奈川県内でスクールカウンセラーとして三十余年子どもたちと向かい合っている方にお願いしました。

テーマは「いまどきの子どもを考える」です。主な内容を紹介します。

○最近の人間関係、親子関係が希薄になっている。お互い眼を合わせず会話がなく、人間的な接触が少ないので、葛藤感情もなく、一番大切な挨拶や感謝の言葉もない。

○大人自ら見直し、子どもたちの見えない声に耳を傾ける。

（声をかけて！　かまって！　名前を呼んで！　あなたが大事と言ってほしい）

歯切れの良い口調で分かりやすくお話をしていただき、皆さんはメモを必死で取っていました。子どもたちは自分から「助けて」とは声を出せません。大人は気になる子どもがいたら声をかけてあげましょう。

暑い中、この推進大会にご参加いただきありがとうございました。

日帰り研修に参加して

総務部　久村　秀子

六月十二日、東京拘置所（葛飾区）と浅草散策に向け出発しました。浅草寺や仲見世通りを散策し、東京拘置所へと向かいました。

拘置所は、まるで高級マンションかと見紛（みまご）う建物に圧倒されました。『明るく近代的な都市型拘置所としてセキュリティに配意した施設建物』と明言している通り、地下二階地上十二階建・冷暖房完備・完璧なセキュリティ・鉄格子は無く強化ガラス張りの建物でした。

【沿革】

明治三年　鍛冶橋監倉（牢屋）を建設
明治三十六年　東京監獄として発足
大正十二年　市谷刑務所に改称
昭和十二年　西巣鴨に移転し東京拘置所と改称
昭和四十六年　現在の小菅に移転
平成八年　改装工事着工
平成二十四年　完了

【収容対象者】

収容定員は約三千名
未決拘禁者（刑事被告人）
死刑確定者（死刑囚）
懲役受刑者（本所執行受刑者及び他刑務所への移送待ちの一時受刑者）

他の拘置所と大きく違っているのは、被収容者の健康管理が徹底しており二十余名の医療スタッフにより、定期的に居室棟を巡回し疾病等の早期発見に心がけている。また、人工透析装置やＣＴスキャナーも完備している。『首都圏の治安を支える我国最大の拘置所』として適正な収容生活の確保と更生のための矯正処置等を行っているとの事です。

健康面をはじめ色々配慮された施設であると強く感じるとともに、職員の方々の努力が少しでも報われることを願っての見学でした。

東京拘置所にて

《愛光女子学園》
～中学校卒業証書授与式に参加して～

広報部長
大沢　美保子

本年三月二十六日（木）午後、東京都狛江市にある愛光女子学園で、中学校卒業証書授与式が行われ、府中地区保護司会からは二名が出席した。

愛光女子学園は、昭和二十四年、国内で最初に設立された女子少年院で、関東・甲信越および静岡の各家庭裁判所で少年院送致の決定を受けた十四歳以上二十歳未満の女子少年を収容している。

この日、卒業する中学三年生は七名。ブレザーにスカート姿、黒い靴とハイソックス、髪はお下げにしたり、結んだりしていたが、普通の中学校の卒業式と何ら変わりはない。だが、在籍する七つの中学校の校長先生がそれぞれの生徒に卒業証書を手渡すこと、そして、本人の名前と生年月日は読まれるが、学校名はなく、ただ学校長で終わるところが違っていた。

さらに印象に残ったのは、最初に在園生からの「お祝いの言葉」だった。「私は卒業式に出たことがありません。卒業証書も後で取りに行っただけです。卒業式に出られたことへ感謝の気持ちを持ってください」。

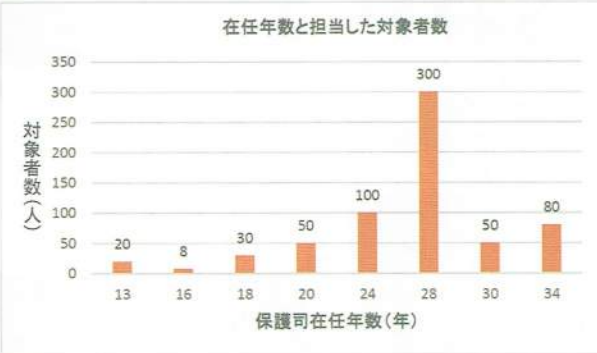
後輩に対する思いあふれる送辞に続いて、卒業生の「卒業の言葉」は、いっそう感動的だった。七人がそれぞれ自分で書いたメッセージを、参列する保護者や在園生に向かって読み上げる。「自分の行いで家族や先生に迷惑をかけ、悲しませてきました。都合の悪いことは他人のせいにしていました。今、自分を見つめ直し、ここで学んだことを糧に少しでも成長していきたいです」。万感胸に迫るものがあり、少女たちは涙で言葉につまることもしばしばだった。「この日を思い起こし、更生に向けた決意を新たにしてほしい」学園長の式辞にもあったように、私たちも心からそう願った。

『旅立ちの日に』の歌が会場いっぱいに響き、閉式となった。

①保護司在任年数と②担当した対象者数

在任年数（年）	13	16	18	20	24	28	30	34	（平均）22.8
対象者数（人）	20	8	30	50	100	300	50	80	（平均）80

（注）どちらか片方のみの回答は掲載していません。



③保護司会における活動で印象に残った活動には、どのようなものがありましたか？

- ◆社明推進大会、自主研修
- ◆地区の変更・・北多摩南から府中へ
- ◆会則の変更・・保護司全員に活動の場ができた
- ◆学校との連携委員会の発足
- ◆多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典（第27回）の開催
- ◆報告書の作成（主に暴走族対応）
- ◆都立府中西高や府中第四中の合唱（四中合唱部が社明で都知事賞を受賞したとき）
- ◆広報部での紙面作り・編集（松本恵子）
- ◆「高幡不動のアジサイを見ると、ご住職の社明大会でのご講演を思い出します。ビジョンを持って育てる努力の積み重ねです」（大住猛雄）

⑥保護司会や後輩に望むこと

■保護司の仕事がだんだん忙しくなってきています。仕事・家事・育児・介護などで忙しい中、活動しておられる方が多いようですが、個人の生活を大切にして活動できるとよいと思います。
　私は、前半の10年は大した活動もせず、理事になって始めて保護司というものが理解できたように思っています。何かと工夫して、理事会の内容を多くの方に知らせられたらよいかなと考えています。（松本恵子）

■府中地区は分区がなく、一市です。会長中心に皆が一緒に行動がとれ、他市とは全く別です。分区同士でいろいろあって、府中のようには何でもできないという話をよく耳にします。（中込健二郎）

■日頃からアンテナを掲げ、社会的な現象を収集・分析し、意見交換などを行い、集団活動をすることが大切と思う。そして、未来に向けて、明るい社会作りをめざしてほしい。

■頑張って下さい。

■ご苦労様の一言です（杉本ケイ子）

■自主研修を盛んに実施されたい。講師の講話は勉強になった。（中島利夫）

■対象者の事情、意見を聞き、本人が約束を守って進んで来訪できるよう仕向ける（吉野千吉）

■サポートセンターを活用し、社会貢献活動をいかせるといいと思います。何かを作り育て、将来それを見て自分も参加したことがあったと思いだせることがあれば、誇りになるのではないでしょうか。（大住猛雄）

■34年間担当して、本当に立ち直った人が何人ぐらいか不明。指導力不足を反省している。

特集 保護司会 今昔物語

府中地区保護司会創立 20 周年に向けて

保護司会創立20周年

府中地区保護司会は、平成28年12月に、北多摩南保護司会から独立後、満20年を迎えます。そこで、定年まで保護司を務め、府中地区桐友会に属しておられる方々にアンケートをお願いしたところ、多数の方からご回答がありました。今までの貴重なご経験を伺うと同時に、今後のために大変参考になるご意見もいただくことができました。回答者の皆様に感謝申し上げるとともに、概要をご紹介致します。

「保護司会だより」では、今号（第37号）に続けて、38号・39号と全3回にわたり、20周年記念の特集を組む予定です。

アンケートの内容

- ①保護司在任の期間
- ②担当した対象者の数
- ③保護司会における活動で、印象に残った活動
- ④在任中の一番の思い出
- ⑤保護司になってよかったと思えること
- ⑥保護司会や後輩に望むこと

（注）文中敬称略
回答には匿名希望のものも含まれます

④在任中の一番の思い出

宿泊研修・懇親会など。北は北海道網走から、南は鹿児島の刑務所、少年院などへ多く行ってきたので。

青森刑務所研修、十和田湖の風景がきれいだった。10/17・18の朝10時ごろ。

宿泊研修の折、今は亡き先輩に保護司としての心構えや、対象者来訪時の受け入れ準備等、ご自身の経験を踏まえてお話を聞いたとき。
（杉本ケイ子）

役員会（理事会）終了後、食事会を設け、観察官、市の事務担当者と懇談をもてたこと。
（吉野千吉）

官の行う研修が認証され、自主研修は認められないと反発された事。（中島利夫）

個人的には、松本少年刑務所での研修に当たって体調を崩し、三途の川を渡り掛けましたが、皆様のお蔭で、今に生きながらえています。
（幸尾弘子）

⑤保護司になってよかったと思えること

就任当時は、西部地区では保護司の数が少なく、7～8人の対象者を同時に観察するのに必死でした。無期刑の男性（60歳）が恩赦を受け、喜びをともにできました。（幸尾弘子）

立派に更生した人が、いまだに会うと「先生」といってくれ、（アルコール依存者でしたが）時折話に来てくれることです。
（中込健二郎）

大勢の人と交流ができた。保護司の居住地が市内全域で、職業も多岐なため、必要な情報が得られ感謝します。

平成二十七年度(春)
受賞者

○府中地区保護司会
多摩地区保護司会連絡協議会
会長感謝状
秋山　勤
伊藤　ゆきえ
山上　稔

○更生保護事業貢献者
多摩地区保護司会連絡協議会
会長感謝状
大國魂神社　禰宜　松本　昌司

○府中地区更生保護女性会
日本更生保護女性連盟　会長表彰
髙野　佳子

多摩地区保護司会連絡協議会
会長感謝状
赤堀　田鶴子
秋山　ヨリ子
金子　トミ江
滝島　孝枝
中村　揚子
松村　節子

退任あいさつ

下載の清風誰にか付与せん

前会長　保坂　昌代

私の人生の最後を飾る仕事として保護司という一つの尊い使命が与えられたことに、感謝しております。それと同時に、保護司会の皆様との温かな心の交流の中で、その職務を遂行することができましたことに心より感謝しお礼申し上げます。

私の保護司としての十六年間の中で皆様のご協力・ご支援をいただきながら大きな二つの足跡を残すことができましたことに感謝いたします。

一つは、「学校との行動連携」であります。今後は皆様の創意で形を変えて青少年の健全育成にあたり、発展させていって下さい。

二つ目は、「更生保護サポートセンター」の設置です。この活動を通して痛感したことは「更生保護思想」は一般社会には定着していないということです。開かれた保護司会活動をして様々な分野の方々と連携を図り社会に認められる質の高い運営をしていって下さい。

星月夜
サボセンの庭　輝けり
正なる道の　拠り所として

この歌は保坂前会長退任にあたって大沢部長より贈られたものです

退任者
木村　講和
在任中、お世話になりありがとうございました。

新任あいさつ

宮本　至隆

今年三月に定年となり、以前からお話をいただいておりました保護司に自分がなれるのかという不安と戸惑いはありましたが、少しでもお役に立てることができるならとお引き受け致しました。

新任研修を受け、責任の重さと難しさをあらためて感じました。皆様にご指導をいただき、微力ではありますが一生懸命努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

編集後記

今回の「保護司会だより」第三十七号は先輩からのアンケートを掲載致しました。

お忙しい中ほんとうにありがとうございました。

私たち後輩は、参考にさせていただき学びながら成長したいと思います。

次回もさまざまな記事を載せたいと部員一同張り切っておりますので皆様のご協力をよろしくお願い致します。

また、ご意見ご要望がありましたらご一報いただければと思います。

野口　良子

広報部

部長　大沢美保子　赤塚　正坦
副部長　堺　美佐子　伊藤ゆきえ
書記　伊藤　仁　杉浦　渉
会計　野口　良子　内藤　治
小澤　宏　中込八重子

題字は高野市長の揮毫によるものです